

NTU Summer Program + N1 Biotechnology 参加報告

統合生命科学専攻 分子情報解析学分野 修士課程1年

板垣義綱

8/13-8/26の間、国立台湾大学(NTU: National Taiwan University)で行われた“NTU Summer Program +N1 Biotechnology”に参加しました。参加者はPromise Ogor、武田仁紀、白坂勇太郎、坂上小百合、板垣義綱の計5人です。このプログラムは最先端かつ幅広い研究に触れること、NTUの教授方と議論を深めることを目的とし、2つのパートから構成されています。

初めの1週間は各々研究室に配属され、そこで実験を行います。私はエピジェネティクと発生の研究を行っている林劭品准教授の下に配属されました。そこで人生初めてB6マウスを解剖し、その睾丸を摘出しました。痛みを感じさせないように素早く行う方法を学ぶとともに、実験動物への感謝も学びました。また睾丸切片を作成し、PLZFとDNMT3Lというタンパク質の免疫二重染色を行いました。しかしDNMT3Lが染まらず、その原因についてタンパク質が発現していないのか染色の失敗かで准教授と議論をしました。



林劭品研究室のメンバーとともに

次の1週間はNTUの学部生とペアで基礎的な生物学実験とその講義を受けます。私のペアは生物学の実験が初めてという法学部の学生で、ペットの使い方から試料の混ぜ方まで何も知りませんでした。そのため、方法をすべて説明しなければならなかったのですが、逆に英語で説明する良い機会になり、かつ自分の操作に誤りがないかを振り返ることができました。また最終日に彼が台湾のお茶などをプレゼントしてくれたのが嬉しく印象的でした。



ペアの張維庭と

最終日には1週目の研究室で得られた結果を10分間で発表します。私を除く京大生全員が受賞をするという大変素晴らしく、また凄惨な結果となりました。結果はともあれ、大勢の聴衆の前で英語を用いてプレゼンテーションを行ったことにより、私の弱点が浮き彫りになり、今後活かせるようになりました。



プレゼンテーション終了後、京都大学のメンバー全員で

休日や夜のアクティビティが充実しているのも特徴です。台北の夜市では、王毓宣や方如螢らに台北と台南の味の違い(南のほうは味付けが甘め)、伝統的な甘酒についてなど毎晩教えてもらいました(臭豆腐は美味しかったです)。また休日には台北の北にある淡水という町や故宫博物院などに全員で観光に行く機会もあるなど至れり尽くせりでした。また本場の中国語もたくさん学び、おそらく英語より中国語のほうが上達したのではないかと思います。この台湾で得た経験を今後の人生に活かしていこうと思います。



打ち上げパーティーのあと参加者全員で(左)、台湾の風景(右)